



宮田脩理事長

未来社会に適応できる実学志向の大学へ

鈴木：2004年からの国
立大学の独立行政法人化、
少子化といった問題もあり
まして、ますます大学間の
競争が激しくなるという中
で、大学側は「選ばれる大
学づくり」についてどう考
えているのかお聞かせくだ
さい。

宮田：社会は常に変わるもので、その変化にどうやつて耐えていくかということ
が大事なことです。社会変
化を要因にして、生きる方
向というのを考えていかな
いと、大きな流れに流され
てしまつて、気付いたら自
分の居場所がなくなつてい
ます。

高倉：教育は過去の文化遺産をいかに効率的に次の世代に伝えるかということに、しかし、過去の文化遺産の伝達ではなくて、未来社会への適応という、時代に対する展望をもつた適応力をいかに身につけていくかと
いうことが教育に求められ
ています。つまり、実学志
向の教育に向かうべきだと
いう認識を持たなければい
ません。

増岡：社会に対応するため
に今、何をするのか・基本
的には教育の質の向上を目
指すということになるで
しょう。そこに向かつて、
今まで魅力ある大学作り、
豊かなキャンパスライフの
創造で、教育は知の伝達。
そして、社会貢献は知の応用。
この三つの機能をバランス



横濱孝雄教育後援会会長

教育の質の向上を目指して

鈴木：大学の質だと考え、教育の質の保証を考えなければならぬと思っています。

宮田：大学 자체もその社会の変化に対応していく能力を持つないとダメです。

高倉：大学とは何か。いろいろな議論がありました。大学の質とは何か。私は教育の質だと考え、教育の質の保証を考えなければならぬと思っています。

横濱：カリキュラムを改変して、学部、学科を越えた単位取得を可能にしたことにより、学生にグローバルな社会人になつてほしいと
いう大学側の思いが感じられました。資格取得を勧めてくれるのも学生のためを思つた教育だと私たちはと
らえております。保護者に

鈴木：私たちには建学の精神をどう現実のものにするか、ということを常に考えて大學経営をしています。

宮田：私は単に海外からの観光客を増やすべきといふことではあります。それがあなたの意見を集約して上にあげて結論を出して執行するという

少子化による18歳人口の減少に伴い、大学の受験志願者数は減少し、定員割れの大学が出てきたり、規制緩和による国立大学の法人化など、昨今の大学を取り巻く社会はたいへん厳しいものとなつていて。本学では変化の激しい時代を生き残るために、さまざまな取り組みに着手している。今回は宮田理事長、高倉学長ら大学の経営陣にご出席いただき、「明海大学の新しい歩み」をテーマに、大いに語り合つていただいた。

宮田：大学の質とその社会の変化に対応していく能力を持つないとダメです。そういう意味では大学は、変化に対応するのが非常に弱くて、今までには変化に対応しきれない、そういう組織であるわけです。今、変わる努力をしているというのが現状だと思います。

高倉：まず必要なのは、大学の意識を変えることで、教学の責任者の強力なリーダーシップとバランス感覚が問われているのだと

思ふ商品は研究ではなくて、も教育を中心と考えていこうと。事実、学生が大学に授業料を払つて買いたいこと

横濱：カリキュラムを改変して、学部、学科を越えた単位取得を可能にしたことにより、学生にグローバルな社会人になつてほしいと
いう大学側の思いが感じられました。資格取得を勧めてくれるのも学生のためを思つた教育だと私たちはと
らえております。保護者に

鈴木：私たちには建学の精神をどう現実のものにするか、ということを常に考えて大學経営をしています。

宮田：私は単に海外からの観光客を増やすべきといふことではあります。それがあなたの意見を集約して上にあげて結論を出して執行するという

社会の変化に応えられる大学を目指して

明海大学の新しい歩み

2005年新春座談会

充実、それから選ばれる大学を作りとやつきました。来年度は学部長が各学部の業務執行計画を作つて、期限を決めて方法を決めて、達成度を評価するということが提唱されています。

高倉：大学の質の保証…クリティカル・アラーンスという言葉がよく使われます。大学の質とは何か。私は教育の質だと考え、教育の質の保証を考えなければならぬと思つています。

宮田：大学とは何か。いろいろな議論がありました。大学は、教育機関であると。そして研究や社会貢献の機能であると考えたほう

がわかりやすい。あくまで授業料を払つて買いたいこと

が誰なのか、ということになると思います。まずは学生、その後にご父母です。

まだ、未来社会に適応し

ていくために、生涯学習の重要性がいわれていますが、生涯にわたつて自ら学習を続けていくような基盤と手段を、大学の4年間にどれだけ形成していくかも、重要なことでしょう。

よく動かしていくことが、

大学に求められているので

す。

そこで地域の人たちも含まれます。利害関係人であるステークホルダーが、本当に満足しているのか。みんな満足していて、「いいよね」と言つてくれればそれが大学の評価になります。

それが品質保証です。

では、具体的にど

ういう能力が身に

ついていれば、ス

テークホルダーは満

足してくれるの

でしょうか。最低限I

T関連の能力がなくてはい

けないでしょ。

そして英語ではなく

共通語として必要です。

これから生きていく変化を自

分で感ずる能力。あるいは

自分の言いたいこと、思つ

ていることをどんどん人前

にオフィサーを置き、強力

ボトムダウンとはいいませ

んが、時にはいいリーダー

シップを発揮してスピー

ディーに意思決定して執行

していく仕組みも必要です。

シップを発揮してスピー

ディーに意思決定して執行

していく仕組みも必要です。

立国政策が提言されました。

日本の場合は海外旅行に出

る人は多いのですが、外國

から来る人が少ないとい

うことで、もっとグローバル

化を計らなければいけない、

というところから提言され

ます。

ステークホルダーの満足を得るために



社会の要請に応えて新学部開設

豊かなキャンパスライフの創造で、教育は知の伝達。そして社会貢献は知の応用。この三つの機能をバランス

は誰なのか、ということになると思います。まずは学生、その後にご父母です。

関係人であるステークホルダーが、本当に満足しているのか。みんな満足していて、「いいよね」と言つてくれればそれが大学の評価になります。

それが品質保証です。

では、具体的にどういう能力が身につけばいいのでしょうか。現実的

に考える

と、我々のステークホルダー（利害関係者）

なんですね。ブレークにな

らホスピタリティ・ツー

からホスピタリティ・ツー

2004年度地区父母懇談会

年度地区父母懇談会 今年も5地区で開催！

9/18
(土)
北陸地区（新潟市）

2004年度最初の地区
父母懇談会が北陸地区でス
タートした。

と話し、実際に大学で取り組んでいる具體的な話をされた。講演では岩田文夫経済学部教授が『フランスのブドウ畑とツーリズム』と題し、学生と共に訪れたフランスのブドウ畑を見てきた話をされた。ブドウ畑の多くはワイン用のものだが、

●2回目の参加です。この懇談会しか先生方と直接話をする機会がないので、会回も参加しました。何か資格がないと就職が厳しいと思うので、自分に何ができるのかという表現のためにも資格を取得してもらいたい。 (経済学科2年)

母の方には色々な意味でご心配されているかと思います。ぜひこの機会に先生方や職員の方に相談していただけだき理解を深めていただければと思います」とあいさつ。

続いて成瀬副学長が、「大学に対し色々とご支援いたしましたが、もうどうぞ

近況報告として、「成瀬先生の話にも『実学』ということがでましたが、もっとはつきり言いますと『就職に強い大学』を目指しているこう、ということでお大きく舵を変えてまいりました」と話し、実際に大学で取り組んでいる具体的な話をされた。

校に向けて準備をしています」と、新学部ができる背景として国が観光行政に力を入れていると説明された。

小泉副学長からは大学の近況報告として、「成瀬先生の話にも『実学』ということがでましたが、もっとはつきり言いますと『就職に強い大学』を目指しているこう、ということでお大きく舵を変えてまいりました」と話し、実際に大学で取り組んでいる具体的な話をされた。

部を新設することになり開校に向けて準備をしています」と、新学部ができる背景として国が観光行政に力を入れていると説明された。

小泉副学長からは大学の近況報告として、「成瀬先生の話にも『実学』ということがでましたが、もっとはつきり言いますと『就職に強い大学』を目指しているこう、ということでお大きく舵を変えてまいりました」と話し、実際に大学で取り組んでいる具体的な話をされた。

卒業予定の父母の皆さんが、卒業も何とかなると言わされました。4年間参加し来年からこの会に出られないの寂しいと思います」など様々な思いを話してくれた。

《個別面談》

《懇親会》

《参加者の声》

2004年度最初の地区
父母懇談会が北陸地区でス
タートした。

成瀬副学長、小泉副学長
をはじめとした教職員、教
育後援会役員、父母など約
50人が参加。

まず、鈴木教育後援会副
会長が、「この地区懇談会
は今日を皮切りに、これから
各地区で開催されますが、
この懇談会は教育後援会の
事業として、とても大事な
事業になつております。遠
く離れて暮らしているお子
さまの動向については、父

いいます」とあいさつ。また、
国立大学の法人化について
の話や産学協同の問題につ
いて話し、「どの大学も教
育面では実学に力を入れる
ようになりました。本学も
以前より教育方針として実
学の方向に舵をきりカリ
キュラムや各コースを設け
ています。卒業までに目的
を持ち教育をしていくうと
進めしており、大学としては
全力でその目的達成のため
に努力しています。来年度
からはホスピタリティ・
ツーリズムという新しい学
について話をされた。

ここ20～30年の間にツーリ
ズムが加わり、観光客にワ
インだけを売るのではなく、
別の所得をその地域にもたら
していると説明。また、
ワインについての歴史や觀
光客による環境破壊など、
ブドウ畑を通じた環境問題
や経済にもたらす相乗効果

岩田文夫教授の肖像写真。岩田文夫教授は、眼鏡をかけた男性で、マイクを持った講演姿。



岩田文夫教授の講演

9/25
(土)
東北地区（盛岡市）

盛岡市では昨年に続き2回目の開催となり参加者は

小泉副学長（不動産学部長
兼務）をはじめ、小池外国
語学部長、朝日経済学部長
の3学部長のほか教職員、
父母、教育後援会役員を含
め約50人。



小松達也教授の講演

10/10
(土)

数になり、受験生が大学を選ばなければ、どこかの大学には入学できると話した。そして、「幸いにして明海大学の各学部では、定員を割るといった状況にはありませんが、そのような状況を踏まえて大学としても様々な改革をすすめてきています」と説明。大学をよりよいものにし、3割の大學生にならないためにも教職員、学生、父母、同窓会の相互の関係が必要と話された。また、「就職に強い大學を目指す」ために行つてゐる「マイキャリアゼミナール」などについて、具体的に説明された。

講演では、同時通訳の第一人者であり本学外国语学部教授の小松達也先生に「通訳・言葉を生かすキャリア」と題し約40分間講演をしていただいた。小松先

ます。仕事にても、好きな仕事ばかりというわけにはいかず、嫌な仕事をするからお金がもらえるのかもしれません。しかし、好きなことをしてお金がもらえば、こんないいことはありません。何か好きなことがあるに違いない。何か好きなことを見つける。時間が掛かってもいいから見つける。見つけたならば最後まで粘つてやれ。必ず芽が出るから、と言つています。自分の道、自分のキャリアを作つていくのが、これからの方には必要だと思ひます」と英語一筋でご自身の人生のキャリアを培つてこられた、小松先生ならではの、大変貴重な講演となつた。

まず、奥山副会長が、教育後援会の本年度事業について説明した後、「普段心配に思つてることを遠慮なく質問してください。このういう機会は1年に一度しかないので、有意義に過ごしてください」とあいさつ。大学側を代表して高倉学長が、少子化などによつて大学が直面している厳しい現実を話し、「明海大学は徹底した美学指向で特徴を出し、他大学との差別化をはかつていく」と強い決意を述べた。さらに成瀬副学長が大学の近況報告で来年度からスタートする新学部「ホスピタリティ・ソリューションズ学部」について触れる一方「一人ひとりの学生がどれだけ充実した学生生活を送るか、その中身が重要」として、さまざまなもの理由で学生生活につまずいてし

報告をされた。まず、教育後援会が行つてゐる活動や大学に対してのサポートが大学の発展に大きく寄与していると感謝を述べたあと、国内の4年生大学の3割が定員を確保できないといつた現状や2007年には受験生と大学の定員数が同じ数になり、受験生が大学をます。仕事にしても、好き嫌いをした。まず、奥山副会長が、教

ており、話の中では、通訳をした総理大臣の人柄や沖縄返還交渉、サミットなどで通訳をされたときのエピソードなどを話していただき、最後に、「学生には好きな物を見つけてもらいたい。好きなことを見つけることは難しいことだと思いま

台風22号は通り過ぎたものの、ぐずついた空模様となつたが、高倉学長をはじめ、成瀬副学長、小池外国語学部長、朝日経済学部長のほか教職員、父母、教育後援会役員を含め約70人が参加した。

「経済学部の男子が国税専門官に合格し、東京国税局に就職が内定しました。これからも我々と公務員試験後は、留学したことにしてしまった学生がいます。帰国後も留学していたときと同じ緊張感をもつて、後半の学生生活を送るようアドバイスをしました」と話をしてくれた。

の合格者を増やしていくた
い」と嬉しい報告があつた

地区懇談会アンケート 新潟・盛岡・福島・静岡 アンケート回収数87

日本語学科10人・英米語学科23人・中

A. 今回の地区懇談会に参加した印象は
·はじめての参加でしたが、大学の近況報告などが聞けて良かった・和やかな雰囲気でした・

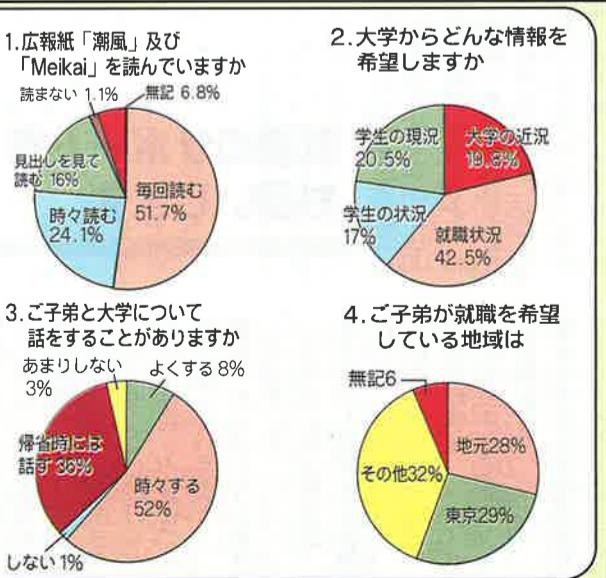
B. 今後の教育後援会に期待することは

- ・大学と父母の掛け橋・教職員と父母が話せる機会をもっと増やしてほしい（年2回）
- ・学生のニーズの把握をどんどんしてほしい
- ・年1回の懇談会を楽しみにしています。これからも父母にとっても身近な大学となるような取り組みを希望します。今までいいのでは
- ・大学と一緒に前進してほしい・毎年、盛岡で開催してほしい・懇談会の継続と拡大・個別面談のときに、学生の人物像をある程度把握して話を聞いていただけるとありがたい

・とても有意義だった・大学が目指していることに対してのカリキュラム等が具体的にわかり大変勉強になった・安心感、満足感を持つ事がで

C. 大学に関しての要望は

- いろいろな情報・食堂の充実・学生に学ぶことの楽しさを教えてほしい
- 学生個人への就職についてのアドバイスを・実績を積み歴史ある有名な大学になりますよう希望します・一人ひとりにきめ細かい指導をされないと聞き、父母としては大変感謝しています。今後も引き続きアドバイスしてください・現在4年生で留学中ですが、就職についての情報や指導をお願い致します・人間教育をお願いします・あまり名前が知られていないので東北地区にもっとピアールしてほしい・就職に強い大学を目指してほしい。資格取得などは大いに推進していただきたい・学生たちの出身地別の集会を実施しコミュニケーションを図ってほしい・入学したばかりなので、1年間様子を見たいと思う



地域社会を担う次世代が 浦安市内の犯罪を抑止! 『学生防犯 ボランティア発足』

皆さまを引っ張ついていただけ
たい」と、明海生に期待
寄せた。今後、各校の特
色を生かした活動を考え
ることを宿題として締めくく
られた。

平成16年1月~9月末ま
で浦安市内の犯罪で一番
多いのが窃盗犯。次いで粗
暴犯、知能犯、風俗犯。人
口1万人当たりの刑法犯総
数は、街のみんなにあつたと

内にある4つの高校が防犯
活動に取り組む「学生防犯
ボランティア」が発足し、
代表者会議が行われた。
これは、地元の高校生か
らの「地域の人たちと防犯
活動に参加し活動したい」
との声を浦安市防犯協会会
長が聞き、防犯課が各学校
に話したところ快諾、発足
の運びとなつた。

期待される明海生のリーダーシップ

皆さまを引っ張ついていただけ
たい」と、明海生に期待
寄せた。今後、各校の特
色を生かした活動を考え
ることを宿題として締めくく
られた。

平成16年1月~9月末ま
で浦安市内の犯罪で一番
多いのが窃盗犯。次いで粗
暴犯、知能犯、風俗犯。人
口1万人当たりの刑法犯総
数は、街のみんなにあつたと

て、犯罪発生抑止の啓発活
動が行われ、学生防犯ボラ
ンティアも同行し初めての
活動を行つた。「やるから
には、とことんやるよ」と
張り切る声も聞かれるなか、
犯罪抑止呼びかけるチラ
シとホットカイロを配布し
た。参加した佐々木和哉さ
んは、「防犯に対する意識
が、街のみんなにあつたと



Interview

今年度、日本語学科の主
任に就任した水谷信子先生。
現在は学部での科目は持つ
導を行つてある。

1929年東京生まれ。東京大学文学部卒業後、ミシガン大学大学院に留学。帰国後、日本語教育に関する研究指導を行つてある。

「日本語は他の国の言葉と比べると、単語の数がとても多く、似たような意味の言葉がたくさんあります。例えば「すぐ」と「さつそく」は似ているけれど、使い方は違う。外国人の生徒から質問をされた時に、明確に答えられるよう意味の違いをしっかりと勉強しないではなくなりません」。

日本語そのものについて知つていなければいけないのはもちろんだが、その一方で、「その国の人と、どのようにコ

外国語学部日本語学科 水谷信子先生

といふのが、大学院では語学教育に欠かせない日本語と英語の比較对照研究や、日本語教育に関する研究指導を行つてある。

「日本語は他の国の言葉と比べると、単語の数がとても多く、似たような意味の言葉がたくさんあります。例えば「すぐ」と「さつそく」は似ているけれど、使い方は違う。外国人の生徒から質問をされた時に、明確に答えられるよう意味の違いをしっかりと勉強しないではなくなりません」。

日本語を教える上で必要となる生活の環境を知ることも、日本語を教える上で必要となります。今、日本語を勉強している人の数が多い国は、中国、韓国、オーストラリアなど。「教える国の中の言葉はできただほうがいいですね」と先生。

昨年末に、オープンカレッジで「日本語教育講座」がスタートした。日本語学科の講座は初めてで、学科主任になつたのをきつ

思います。けれども、これだけでは呼びかけは足りないと思うので、学生でできることを考えていきたい」。

卒業は大丈夫だと思いますが、就職はまだ決まっていません。いろいろと活動していますので、その中で就職が決まればいいと思いま

す。思い出としては、友人を通じて韓国人留学生とキャンプに行つたり、大学行事に参加したこと。充実した4年間です。師先生にはゼミで2年間大変お世話をになりました。

高橋さんは、「配布活動など、こ

れだけでも呼びかけは足りないと思うので、学生でできることを考えていきたい」。

卒業は大丈夫だと思いますが、就職はまだ決まっていません。いろいろと活動していますので、その中で就職が決まればいいと思いま

す。将来に對して今時点では明確な希望はありませんが、できれば勉強していることが役立つ職業に就きたい

と思います。浦安市防犯課長は、「初めの活動でしたが、声が大きかった」と話してくれた。

浦安市は、特別警戒キャンペーンとし

て、犯罪発生抑止の啓発活動が行われ、学生防犯ボランティアも同行し初めての活動を行つた。「やるからには、とことんやるよ」と手応えを感じていた。

学生ホールで 突然 聞いて みました

「充実した学生生活を送っている」という経済学科4年生2人に。

●鈴木さん

神奈川県の厚木から約3時間かけて通っています。



▲藤さん(右)と岩佐さん

「大学から空手をはじめました」という2年生2人に。

*



▲左から山川さん、岡田さん、大場さん、酒巻さん

「とても楽しそうに話している」英米語学科3年生4人に。

*

「大学から空手をはじめました」という2年生2人に。



▲鈴木さん(左)と大竹さん

●大竹さん

埼玉から通っています。授業は、マイクロなどからクロだとかいろいろ難しい。

高校の時は英語が得意で、英語は今後必要になると思

う。その後、韓国語に興味を持ち勉強をしています。まだ、生活は大学に来て勉強し、極真空手部の練習に参加し、夜はコンビニとファミレスでアルバイトをしています。

生と一緒に行った韓国旅行。その後、韓国語に興味を持ち勉強をしています。まだ、生活は大学に来て勉強し、極真空手部の練習に参加し、夜はコンビニとファミレスでアルバイトをしています。

生と一緒に旅行した韓国旅行。

余裕がありません。1日の

会費を払つて立つ時の距離がおの

ずと違つてくる。

日本語教育の現状や指導方

法、海外の日本語学習事情

などの講義を予定している。

たいへん好評で、35人の定員はすぐにいっぱいになつてしまつたとか。

日本語は国際交流の意識

が高く、120人ものボランティアが日本語教師として登録しています。そんな

地域の特色を活かしながら、

たちを対象に、日本語教育

の訓練の場を提供しようと、

日本語を教える人

